

## 【分析の視点】

神奈川県立図書館にはどのような利用者がいるのか？

## 【分析の概要】

- 利用頻度では、「今日初めて」が18.1%で、新しい本館が開館した直後の2022年度調査の27.1%から年々減少傾向にある。一方、リピート率（「ほぼ毎日」「週に数回」「月に数回」「年に数回」の合計）は2022年度調査の71.8%から年々増加し、今回調査では81.5%となり、着実に定期的な利用が定着していることがうかがえる。（第1表・第1図）（2022年度 第1表・第1図）
- 「資料やサービスについての満足度」では、新しい本館開館前は「職員の対応」が最も高かったが、本館開館後は「施設・設備」の満足度が最も高く、次いで「職員の対応」に変化しており、新しい本館開館の効果の表れと考えられる。（第9表・第17図）（2021年度調査 第8表・第14図）
- 「資料やサービスについての満足度」において、館内の展示関係について質問したところ、「満足」「どちらかといえば満足」の選択率の合計が、「1Fのギャラリー展示」（72.1%）、「各階の本棚の展示」（73.1%）となり、ギャラリー展示を始め、各階の本棚の中に、所蔵資料の紹介や学びのきっかけづくりとして設置している「司書箱」、「シコウの窓」等の資料展示への満足度が高い結果となった。（第9表・第17図）
- 利用者の年代については、新しい本館開館前は60代以上の利用者が約4割を占めていたが、開館後は30代以下の利用者が増えていることが確認できる。特に19歳以下の利用者増は顕著であり、これまで以上に幅広い年代に利用されるようになっている。（第15表・第41図）（2021年度調査 第12表・第28図）

## 1 利用状況について

- ・ 利用頻度について、全体の割合は前年度と変わらず、「月に数回」247人（38.5%）が最も多く、「年に数回」が134人（20.9%）と続いた。ただし、前年度の割合と比較すると、「今日初めて」が（21.7%→18.1%）と減少し、「月に数回」、「年に数回」が増加傾向にあり、リピート層の利用者が定着してきているのではないかとと思われる。（第1表・第1図）
- ・ 前年度と比較すると、「平日」が全ての性別で増加しており、全体では「平日」が（52.1%→57.3%）と約5.2ポイント増加している。

## 2 来館目的について

- ・ 「個人的な利用」446人（69.5%）が最も多いのは、前年度と変わらず。ただし、「座席の利用」が（22.0%→27.4%）と約5.4ポイント増加した。「図書の利用」が（32.6%→34.3%）と約1.7ポイント増加し、「音楽・映像資料の利用」が（2.4%→1.1%）と約1.3ポイント減少した。（第3表・第7図）
- ・ 利用している資料の種類としては「図書」が最も多く（34.3%）、次いで「新聞・雑誌」（12.8%）、「音楽・映像資料」（1.1%）は、前年度と変わらない傾向であったが、「図書」の内「（地域資料）」については（3.5%→2.0%）と約1.5ポイント減少した。（第3表・第7図）

- ・ 男女別の選択の傾向として、「個人的な利用」と「図書の利用」が、男女ともに30%以上選択されている。次いで「座席の利用」（男性25.8%、女性32.8%）になるが、女性が男性より選択率が高い傾向を示している。残り8項目については、女性の選択率は10%以下の数値となっている。男性については、10%以下の項目は6項目「音楽・映像資料」「調査・相談」「生涯学習相談」「展示・講座」「ライブラリーショップの利用」「その他」である。（第3表・第8図）
- ・ 図書館資料の利用を目的とした項目では、「図書」「新聞雑誌」について比較的男性の選択率が高く、「音楽映像」については男女ともほぼ同じ選択率である。比較的女性の選択率が高かったのは、「座席の利用」（男性25.8%、女性32.8%）「展示・講座」（男性1.6%、女性2.0%）「ライブラリーショップの利用」（男性1.4%、女性2.5%）「その他」（男性7.1%、女性8.6%）である。（第3表・第8図）

### 3 県立図書館の選択理由について

- ・ 「静かな環境だから」（62.1%）が最も多く選択され、次いで「建物・雰囲気が気に入っているから」（55.1%）が選択されている傾向は前年度と変わらない。（第4表・第9図）
- ・ 男女の選択率に大きく差があった項目は「専門的な資料があるから」（男性27.4%、女性16.8%）「建物・雰囲気が気に入っているから」（男性50.0%、女性63.9%）である。（第4表・第10図）
- ・ 女性は、「静かな環境だから」153人（62.7%）と「建物・雰囲気が気に入っているから」156人（63.9%）がほぼ同人数選択している。（第4表・第10図）

### 4 利用場所について

- ・ 前年度と変わらず、閲覧スペースと「1F,2F リフレッシュエリア」、「研究ブース・研究個室」が利用場所の上位を占めている。昨年度は次いで「学び⇄交流エリア・ディスカッションルーム」だったが、今年度は「ザ・リーディングラウンジ」となった。選択比率の前年からの変化が大きかった場所は、「1F,2F リフレッシュエリア」（24.1%→27.3%）で約3ポイント増加している。（第5表・第11図）
- ・ 男女別については、選択傾向に違いが見える。男性は、「社会科学資料」（31.0%）、「1F,2F リフレッシュエリア」（22.6%）、「歴史・かながわ資料」（18.8%）なのに対して、女性は「1F,2F リフレッシュエリア」（34.4%）、「社会科学資料」（28.3%）、「人文科学資料」（16.0%）が選択されていた。（第5表・第12図）

### 5 利用の成果（アウトカム）について

- ・ 前年度と同じく、「余暇を有意義に過ごせた」（42.5%）が最も多く選択された。次いで「知識・教養が深まった」（34.4%）、「研究や調べものが進んだ」（29.4%）が選択されている傾向も前年度と変わらない。（第6表・第13図）
- ・ 前年度から「学びのきっかけと出会った」が（16.9%→12.6%）約4.3ポイント減少し、「仕事に役立った」（14.4%→15.1%）が約0.7ポイント微増したため選択率が逆転した。（第6表・第13図）
- ・ 男女別については、選択傾向は似ているが、「余暇を有意義に過ごせた」は、男性（37.0%）、女性（52.0%）となり、男性に比べ、女性の半数以上がこの項目を選択している。また、第3表「本日の来館目的」で「仕事上の利用」についてが、女性に比べ、男性の回答比率が高い（男性13.6%、

女性 6.6%) ためか、「仕事に役立った」についても男性の回答比率が高い(男性 17.7%、女性 12.3%)。(第 3 表、第 6 表・第 14 図)

## 6、7 満足度について

### 「全般的にみた県立図書館の満足度」について(第 7 表、第 8 表)

- ・ 「満足」が 70.9%であり、前年の 74.6%から約 3.6 ポイント減少した。「どちらかといえば満足」は前年の 24.2%から 26.7%と約 2.5 ポイント増加した。「満足」と「どちらかといえば満足」を合計すると 97.6%となり、総じて満足度が高い結果となった。(第 7 表・第 15 図)
- ・ 男女別の回答においては、「満足」(男性 72.3%、女性 69.1%)と「どちらかといえば満足」(男性 25.1%、女性 28.8%)の合計は男女ともに 97%を超えた結果となった。(第 8 表・第 16 図)

### 「資料やサービスについての満足度」について(第 9 表、第 10 表、第 11 表)

- ・ 「満足」が最も多く選択された項目は、「施設・設備」(77.9%)であり、前年度と同じ傾向である。次いで、「職員の対応」(62.1%)である。その他の項目についても、中央値がすべて「満足(4)」を示している。(中央値については「わからない」を除く回答者数を総数(分母)として算出)(第 9 表・第 17 図～第 18 図)
- ・ 「満足」「どちらかといえば満足」の選択率の合計が 70%を超えた項目  
「施設・設備」(98.3%)、「職員の対応」(84.6%)、「開館日・開館時間」(84.2%)、「図書」(77.9%)「各階の本棚の展示」(73.1%)が昨年度と同じで、今年度は「1F のギャラリー展示」(72.1%)が加わった。(第 9 表・第 17 図～第 18 図)
- ・ 「満足」「どちらかといえば満足」の選択率の合計が 50%未満の項目  
「音楽・映像資料」(34.3%→34.8%)、「データベース」(35.0%→40.7%)、「電子書籍」(26.4%→34.0%)、「調査・相談」(37.5%→42.3%)、「生涯学習相談」(23.8%→29.3%)の 5 項目。ただし、いずれの項目も前年度より「満足」「どちらかといえば満足」の選択率が上がっている。また、前年度 50%未満の「4F のパンフレット・チラシ」(45.1%→50.3%)は今年度は 50%を超えている。50%未満の 5 項目ではいずれも「わからない」が 50%を超えている。(第 9 表・第 17 図～第 18 図)
- ・ 男女別でみると、「満足」の選択率は「図書」「新聞・雑誌」「データベース」「電子書籍」「生涯学習相談」では男性が高く、それ以外の 8 項目は女性が高い。(第 10 表・第 11 表・第 19 図～第 33 図)
- ・ 男女ともに、回答の中央値はすべて「満足(4)」である。(中央値については「わからない」を除く回答者数を総数(分母)として算出)
- ・ 男性の回答で「満足」が 40%を超えた項目は、「施設・設備」(77.8%)、「職員の対応」(60.6%)、「開館日・開館時間」(52.4%)、「図書」(48.1%)、「新聞・雑誌」(41.9%)、「各階の本棚の展示」(41.7%)の 6 項目であった。(第 10 表・第 19 図、第 21 図～第 33 図)
- ・ 女性の回答で「満足」が 40%を超えた項目は、「施設・設備」(78.9%)、「職員の対応」(65.3%)、「開館日・開館時間」(59.8%)、「1F のギャラリー展示」(53.1%)、「図書」(47.0%)、「各階の本棚の展示」(45.7%)の 6 項目であった。(第 11 表・第 20 図～第 33 図)
- ・ 展示関連項目の「1F のギャラリー展示」(43.2%)と、「各階の本棚の展示」(43.2%)は同じポイントであった。男女別の「満足」の数値で見ると、女性は「1F のギャラリー展示」(男性 37.4%、女性 53.1%)の満足度が高く、男性は「各階の本棚の展示」(男性 41.7%、女性 45.7%)

が高かった。展示はいずれの箇所でも一定の満足度を得られている。(第9表・第10表・第11表・第29図～第30図)

## 8 入退館時間について

- ・ 平日の入館については、昨年度と同じく「10時」94人(20.1%)が最も多かった。15時以降は10%未満となるが、昨年度に比べ17時(3.7%→3.9%)と19時(0.0%→0.4%)は微増している。(第12表・第34図～第35図)
- ・ 平日の退館時間については、16時(11.3%→8.3%)と18時(13.2%→10.9%)が減少し、19時(20.8%→24.1%)が増加した。(第12表・第34図～第35図)
- ・ 土日祝の入館は、「9時」(25.4%→31.2%)が約5.8ポイント増加し、早い時間帯での入館者が増えている(第13表・第36図～第37図)
- ・ 土日祝の退館については、「14時」までは、10%以下であり、「15時」以降に10%を超えている。土日祝は17時に閉館となるためか、平日と比べ17時に数値が顕著に高く(166名44.3%)なっている。(第13表・第36図～第37図)
- ・ 男女別の平日の入館時間に関しては、男性が「10時」に20%を超えるが、女性については20%を超えることがなく、男女ともに14時(男性13.1%、女性14.0%)を境に減少している。一方、土日祝の入館時間は、「9時」が20%を超えている。また、男女ともに「13時」(男性13.3%、女性16.0%)を境になだらかに減少している。(第12表、第13表・第38図～第39図)
- ・ 前年度に比べると、平日では入館時間「9時」「10時」の選択率の合計が(34.7%→36.6%)と1.9ポイント増加し、退館時間「18時」「19時」の選択率の合計が(34.0%→35.0%)と1ポイント増加している。休日でも入館時間「9時」「10時」の選択率の合計が(46.6%→49.5%)と2.9ポイント増加し、退館時間「16時」「17時」の選択率の合計が(54.3%→59.2%)と4.9ポイント増加している。平日休日問わず早い時間の入館と遅い時間の退館が増えており、滞在期間が長くなっている傾向がある。(第12表、第13表・第36～37図)

## 9 回答者について

### 1) 性別

- ・ 男性368人(57.3%)、女性244人(38.0%)で、前年度と同様に男性の割合が高い。(第14表・第40図)

### 2) 年代

- ・ 昨年度の最多は、「50代」119人(16.7%)だったが、今年度は「70代以上」108人(16.8%)であった。次に多いのが「20代」106人(16.5%)で、「19歳以下」105人(16.4%)が続く。最も少ないのは、昨年度と同じく「30代」59人(9.2%)だった。(第15表・第41図)
- ・ 今年度は、「19歳以下」と「20代」で選択率の増加がみられた。一方で「40代」(12.3%→10.4%)「50代」(16.7%→14.0%)「60代」(13.9%→13.1%)は減少している。「19歳以下」から「40代」までの構成率は52.5%となり、全体の半数以上が、若年層と40代で占められてきたことがわかる。(第15表・第41図)
- ・ 年代別の男女比を見ると、30代以下と50代の差は比較的小さく、「20代」(男性48.1%、女性50.0%)では、女性の割合が多い。一方、40代と60代以上は男女比の乖離が大きくなり、「40

代」(男性 62.7%、女性 35.8%)「60代」(男性 73.8%、女性 26.2%)「70代以上」(男性 78.7%、女性 21.3%)であった。(第 16 表・第 42 図)

### 3) 仕事

- ・ 昨年度は「フルタイム勤務(会社員・公務員等)」228人(31.9%)が最も多かったが、今年度は「学生」176人(27.4%)だった。「その他」を除いて、「専業主婦・主夫」42人(6.5%)が最も少なかった。(第 17 表・第 43 図)
- ・ 男女別でみると、男性が女性の倍以上あった項目は、「無職」(男性 22.6%、女性 6.6%)、「自営業」(男性 10.1%、女性 4.5%)で、女性が男性の倍以上あった項目は「専業主婦・主夫」(男性 1.4%、女性 15.2%)、「パート・アルバイト」(男性 7.6%、女性 18.0%)である。(第 17 表・第 44 図)

### 4) 住所

- ・ 昨年度と比べ、「県内」(88.5%→90.3%)は約 1.8 ポイント増加し、「県外」(6.0%→4.5%)が減少した。(第 18 表・第 45 図)
- ・ 県内在住者の内訳を見ると、「横浜市」(87.7%→86.0%)が約 1.7 ポイント減少し、横浜市内のうち近隣地域(63.9%→59.5%)も減少している。横浜市外の内訳としては、「横須賀・三浦地区」33人(5.7%)が最も多く、次いで「湘南地区」17人(2.9%)が続く。最も少ないのは「県西地区」1人(0.2%)であった。(第 19 表・第 46 図)
- ・ 横浜市を除く県内内訳を男女別でみると、「湘南地区」(男性 12人、女性 5人)については差があるが、他地区については、大きな差はみられなかった。(第 19 表)